

藝園草牧

夕張郡長沼町字隴内一〇六六
雪印種苗株式会社
中央研究農場





上野幌育種場

家畜かぶの給與と乳量

かぶが家畜の飼料として重用されるのは、その生育が極めて早く八〇〜九〇日という短期間で利用できる大きになりしかも収量もその日数の割合には多収であり、かつ比較的土壤や気候を選ばず寒暖いずれの地にもよく育ち、栽培、貯蔵も簡単ということに原因するが、なんといつても乳牛がよく好み、直ちに乳量の増加へもよい影響をもたらすことが最も大きい魅力である。別表は北海道の東北端網走市郊外鱒浦のある酪農家が調査されたものでかぶが乳量にどんな影響をあたえたかを一目瞭然に見ることが出来る。

に暖地においては短期輪作の一環として、冬の貯蔵用として、あるいは冬作用として、寒地では春まきして盛夏に利用するか、秋まきして冬季の貯蔵とするか、いずれかの方法で効果的にかぶを利用することをおすすめする。

参考1 家畜用かぶの品種
 暖地向 下総かぶ、小岩井かぶ、場産かぶ
 寒地向 雪印紫丸かぶ

2 播種期
 暖地 春 三月中旬（六月中旬収穫）
 秋 八月中旬〜九月上旬（十一月月上旬、または二月上旬収穫）
 寒地 春 四月下旬（七月中旬収穫）
 秋 七月中旬〜八月中旬（十一月月上旬収穫貯蔵）

3 反当施肥量
 普通地 堆肥五〇〇貫、硫酸四貫、過石六貫、加里一〜二貫（さらに硫酸二貫ずつまたは下肥を

4 播種法
 一回ぐらゐ追肥する
 反当播種量二〜三合、畦幅二尺

冬季搾乳期におけるエンシレージとかぶの効果

株間八寸〜一尺の条播または点播とする。

